

《入選》

「人権」の大切さ

稲枝中学校 三年

嶋本 結衣 さん
しまもと ゆい

私は人権学習を通して、今年は今まで以上に「人権」について考えることができませんでした。それは、以前は自分の知らない人達の中で差別問題がおきていたという事例の一つでしかありませんでした。しかし、今回実際に差別された方のお話を聞いて同じ滋賀県でこのようなことがあったのかと驚きました。身近な場所でも差別されていたということが私の中で人権についてより考えることができたきっかけとなったからです。

私は、お話を聞く前に自分なら差別されている人やし

ている人にどう行動するの
かという質問に「自分が差別
されている人に何をしてあ
げられるかという考えを捨
てるべきだ」と答えました。
私にとって、「差別されてい
る人に何かしてあげたい」や
「差別されていて可哀想だ」
という考えは自分を勝手に
上の立場にしているおかし
いと感じたからです。それを
学校から帰った後、お父さん
に今日学んだ差別問題やそ
の自分の考えについて話し
ました。すると、「その考えは
少し違うと思う。」と言われ、
「じゃあ、何もしないことが
いいの。差別されている人
をみて別に大丈夫だろうと
感じるのか。そう思うなら人
権学習をする意味がない。」
と返されました。私は、その
時「なんで怒られないといけ
ないの」とか、「そこまで言わ
れないといけないの」と少し
不満な気持ちでした。私は毎

日何がダメな考え方だった
のか考え続けていました。そ
の中での講演でした。私は自
分の考え方が少し違ってい
たと感じました。「差別され
ていて可哀想だ」という思い
は人の優しさで、そう思った
あとに何か行動するかしな
いかで差別をしているのか
していかないのか大きく変わ
ることが分かりました。

このように、今回の人権学
習でどのような行動が差別
しているのか実際に差別を
うけた人から聞くことでよ
り感銘をうけました。これか
らの私も差別している人に
面と向かって「それは違う
よ。」ということは言えない
と思います。だけど、差別さ
れている人の味方になって
話をたくさん聞いて安心して
もらえる存在になりたい
です。